

26. 重症心身障害児（者）の脆弱性骨折防止に対する当院の取り組み

国立病院機構香川小児病院 整形外科¹

○横井 広道¹, 乾 亜美¹

【はじめに】

重症心身障害児（者）は不動性の廃用、嚥下障害による栄養不足、太陽曝露の不足などの要因により骨軟化症及び骨粗鬆症をきたし軽微な外力でも骨折を起こすことがある。当院では平成19年以来、骨折防止のために医師・看護師・理学療法士・保育士がグループを作り取り組んできた。これまでの検討から、寝たきりレベルの重症心身障害児（者）における骨折の危険因子として、股関節の開排角度（両大腿骨のなす角）が45°以下、骨折の既往があること、の2つが挙げられることを報告してきた。こうした骨折リスクの高い患者を主な対象として、平成22年度から骨折防止を目的とした病棟回診を行っているので報告する。

【方法】

院内リスクマネジメント部会活動の一環として、月に1回、部会所属の医師、看護師、理学療法士、保育士、栄養士により重症心身障害児（者）病棟を回診し、患者のポジショニング、オムツ交換動作、車いすへの移動などに際しての、現況の調査とポジショニングおよび介助動作の指導を行った。指導の様子はビデオとして記録し、後の分析、教育に活用した。

【結果】

2010年4月から回診を開始し、これまで延べ18名の患者について、現況の調査と主に

理学療法士からの指導を行った。主な内容としては、ポジショニング（仰臥位・側臥位）指導延べ16名、オムツ交換指導7名、車いす移乗介助指導4名であった。

【考察】

多職種により病棟を回診することで、様々な場面における問題点の抽出が容易となった。また病棟スタッフとのコミュニケーションも良好であった。ビデオで記録することで、後での振り返りが可能となり、また病棟において教育資料として利用することも可能となり、有効な方法と思われた。

【文献】

- 1) 吉野邦夫他：重症心身障害児（者）における骨脆弱性に関する研究. 厚生省精神神経疾患研究. 平成7年度研究報告書. 1986 ; 152—165.
- 2) 横井広道他：重症心身障害児（者）病棟における骨折防止の取り組み. 日本医療マネジメント学会雑誌 2010 ; 11 (Suppl) : S308.